

家族そろって新入生

元気な紀州っ子を応援します！

こころ

からだ

まなび



子どもは小学校入学をきっかけに、今よりも家庭の外に世界を広げ、急速に成長していきます。この時期は、親として子どもの変化に驚き、とまどうことばかりだと思います。

そこで、当協会ではおとうさん、おかあさんと子どもを応援するためにこのパンフレット「家族そろって新入生」を作成しました。

ここでは、入学にあたって、子どもが学校生活に適応していきやすくなりますよう、おとうさん、おかあさんに特に大事にしてもらいたい

<こころ> <からだ> <まなび>

の3つの分野を取り上げました。この機会にご家庭での教育やしつけについて、家族そろって考えてみてください。

また、新型コロナウィルス感染症は未だに終息のめどが立たず、心配されていることも多いと思います。学校現場におきましては色々と対策を講じておりますので、冷静に対応しこどもを支えて行きましょう。

子どもが小学校に入学してからも家族と一緒に食事や会話、日常生活の中で何気ない共有体験を積み重ねることで、将来の生き方に活かされます。

これから新しい環境下でも、自分の思いを周囲に伝える力を育むために、家族のふれあいを大切にしましょう。



公益社団法人 和歌山県青少年育成協会

こころ

お子さんは自分自身のことを好きでしょうか？

- お互いを認め合うためのチェックリスト
- 親子でcheck!!

お子さんにとって、わかりにくい質問であれば、わかりやすい言葉で説明してください。まず、お子さん自身に、質問してみてください。お子さんが、「そうだ」と答えたものに○、「ちがう」、あるいは、「わからない」と答えたものに×をつけてください。

チェックリストⅠ

番号	○・×	チェック項目
1		わたしは、おうちにいるとほっとします
2		わたしは、じぶんはいろんなことができるときもいます
3		わたしは、おともだちとあそぶことが好きです
4		わたしは、おともだちにやさしくできます
5		わたしは、えほんが好きです
6		わたしは、小さい子やいきものおせわが好きです
7		わたしは、あさ、おきたらいつも「おはよう」といえのひとにいます
8		おとうさん・おかあさんは、よく「ありがとう」といってくれます
9		おとうさん・おかあさんは、わたしのきもちをわかってくれます
10		おとうさん・おかあさんは、うれしいときいっしょによろこんでくれます



チェックリストⅡ

次に、お子さんとの日頃の接し方について、チェックしてみませんか。あてはまるものに○、あてはまらないものに×をつけてください。お子さんといっしょに、「こうしてる？」などと聞きながらやってみてください。

番号	○・×	チェック項目
1		子どもの話すことは、どんなことでも「そうだね」と、まず受け止めている
2		子どもの苦手なところは無理にでも克服させるようにしている
3		子どもといっしょに考えることを大切にしている
4		子どもを叱るときには、きょうだいや友達と比べている
5		子どもの得意な面を伸ばすよう心がけている
6		子どもが望んだことは、何でもそのとおりにしている
7		子どもが悪いことをしても、まず子どもの言い分をしっかり聞くようにしている
8		子どものやる気がでないときは、「ごほうびをあげるから」と誘うようにしている
9		子どもがどんなことを考えているのか、いつもわからうとしている
10		子どもが何かに挑戦するとき、先に正しいやり方を教えている



チェックリストⅠは、子どもの自己肯定感の強さをはかっています。

チェックリストⅡは、子どもの自己肯定感を育むための良いかかわりが奇数番号、そうでないかかわりが偶数番号となっています。

単なる合計数で判断するのではなく、一つ一つの項目について、解説を参考にし、親子で話し合いながら、素敵な関係について考えてください。子どもとの関係をふりかえり、子どものやる気につながる自己肯定感を育んでいきましょう！！

1年後、お子さんが2年生になる前に、このチェックにもう一度、挑戦してみてはいかがでしょうか。

分析

Iの○の数

()

■合計が16以上：

その素敵なかかわりが子どもの気持ちを受け止め、自己肯定感を高めます！

IIの奇数番号の○の数

()

■合計が12～15：

子どもと良い関係がでています。子どもの微妙な気持ちの変化にも敏感に！

IIの偶数番号の×の数

()

■合計が9～11：

子どもをしっかり受け入れてみましょう。子どもの笑顔が待っています！

合計

[]

■合計が5～8：

子どもの立場に立って、子どもが嬉しいと思えるかかわりを振り返ってみては？

■合計が0～4：

子どもの思いに耳を傾けて、いっしょにいろいろ感じられるやりとりを！



「今日ねえ、〇〇ちゃんがねえ、てつぼうにぶら下がれたんだよ。」「〇〇ちゃんは絵を描くのがすごく上手なんだ。」「〇〇君ねえ、つみきで遊んでいるときにゆずってくれたんだよ。」「〇〇君は走るのがすごく速いんだ。」

等々…

こどもは友達のことと自分のことのよう喜んだり、ほめたりします。

こどもは友達や学校、遊びのことなどを肯定的に見て、よかったこと、楽しかったこと、面白かったことをたくさん語ります。それは、家庭でも親がものごとを肯定的に見ることが多く、そのような話題が家族の中にあふれているからです。

自分のことだけでなく、周りのことまで肯定的にとらえられるこどもは自己肯定感も育っていると考えられます。そのお手本となるのがいつも身近にいる自分の親なのです。

小学校でこどもの様子を見ていると、

「とりあえずやってみよう。」と言っても、進んで新しいことに挑戦しようとするこどもは少ないです。自分が確実にできるものにしか意欲を示さないように思います。「すぐできる?」「簡単にできる?」が合い言葉のようになっています。

この不安感、自信のなさはこどもたちだけではありません。保護者のみなさんにもあります。

いつも自分のこどもを他のこどもと比較していませんか。

自分の子育てに自信がないと、比較することでしか自分のこどもの良さを確認できないことが多いです。他の子と自分の子をすぐに比較してしまう人は、子育てに対する不安が根底にあると言われています。だから他のこどもの長所ばかり目がゆき、自分のこどもの良さが見えにくくなってしまいがちです。

いつも比べられ、自分の短所を指摘されて育ったこどもが、自分に自信を持てるでしょうか。比べることでしか評価されずに育ったこどもが素直に友達の良さを認め、受け入れができるでしょうか。自分自身に自信を持てないこどもは、いつも友達と比較して自分の置かれた位置や居場所を探すようになります。年齢が進むにつれてその傾向が強くなります。

こどもが自分に自信を持つ子育て、自己肯定感を育む子育てで目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、気持ちをコントロールする力などを高めよう

それには何より、おとうさん、おかあさん自身がご自身を好きであることが大切です。

わが子のいいところをしっかりとほめるようにしてください。失敗したことを責めず、努力を認めるようにしてください。

こどものすべてをしっかりと認め、受け止めるようにしてください。そのことでこどもは安心し、心が豊かに成長します。

こどものささやかな成長を敏感に感じ、それをこどもにしっかりと伝えることでこどもは自信をつけます。そうした自信は、困難にも立ち向かう心のエネルギーとなるのです。

チェックリストIの解説



check!!

番号	
1	家庭に居場所があり、愛情に包まれている証拠です
2	自分はできるという思いが、新たな意欲ややる気につながります
3	遊びの中で人間関係など様々なことを学びます
4	心が満たされていると、周囲にもやさしくできます
5	心の「栄養」を蓄え豊かな感性などを育みます
6	自分が大切にされていると、他者も大切にできます
7	「おはよう」や「おやすみ」などの挨拶は、挨拶する相手を認め、相手から認められる大切な人間関係をはぐくむ営みです
8	こどもの言動を認め、感謝の気持ちを伝えているとこどもも相手の気持ちを受け入れられるようになります
9	くじけそうになった自分を支えてくれるという安心感を感じます
10	喜びを共有してくれることにより、自己肯定感が育ちます

チェックリストIIの解説

番号	
1	こどもの話を共感的に聞くことにより、安心感を与えます
2	苦手を無理に克服させるより得意なものを伸ばすほうが、意欲や自己肯定につながります
3	親子の対話が生まれたり、多様な考え方を身につけられたりすることにもなります
4	比較して叱ることにより、劣等感等をうつづける可能性が高くなります
5	やる気と自己肯定感を高め、苦手なことにも意欲的に取り組む契機となります
6	こどもの気持ちを受け止めることと、要求をすべて受け入れることは違います
7	こどもの言い分を聞くことにより、より深い自己反省をうながすことができます
8	報酬でやる気を引き出すと、損得で物事を判断したり、短絡的で攻撃的な人間に育ちやすくなったりすることが分かっています
9	わかろうとする姿勢が、こどもの成長を敏感につかむことになります
10	こどもは間違いや失敗の中から多くのことを学びます

からだ

入学を前に基本的生活習慣・

家族そろって、入学への喜びと期待を

今、新入生にとってありがたい取り組みが行われています。

幼稚園から小学校教育へ円滑に移行できるように、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校とが連携し、対策を推し進めているのです。一例として、就学前の子どもが小学校を訪問し小学生と交流する取り組みもあります。

このような交流を通じて、お子さんは「お兄さん、お姉さんたちと早く遊びたい」「小学校ってどんな所か分かったよ」などの思いを持ち、温かく見守られながら入学への期待を高めていくことでしょう。

さて、就学を前にした各家庭ではどんなことが求められるのでしょうか。子どもが小学校での生活に適応していくためには「自分のことは人に頼らずにきちんとできる」「困った時や助けてほしい時には、それを伝えることができる」といったことが重要です。そんな生活の自立を目指し、各家庭においては次のようなことに気を配りながら幼児期の育ちの仕上げに努めましょう。

こどもが伸びる生活習慣づくり

睡 眠

こころとからだを育てる



- 10時間程度のよい眠りで、脳とからだがつくられる（大人の睡眠とは異なる）
- 昼間のイキイキ笑顔は、前夜のよい眠りから
- よい眠りのためには、静か・消灯が必要条件（眠りを強くるホルモン[メラトニン]は、暗い所で多量に分泌）
- 登校する時刻(家を出る時刻)までに食事・排便を済ませられるよう、十分な睡眠をとり早起きを

食 事

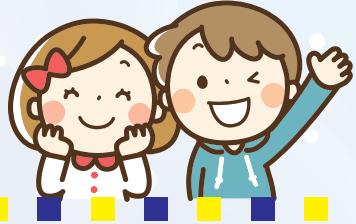
こころとからだをつくる



- 生活リズムの基本に朝食、夕食をおく
- 朝食は、学校生活のエネルギー
- 家族で楽しむ食事は、こころの自立のエネルギー
- 子どもの食事は、将来に食を営む力となる

小学校生活への適応を支える

・社会的生活習慣の見直しを

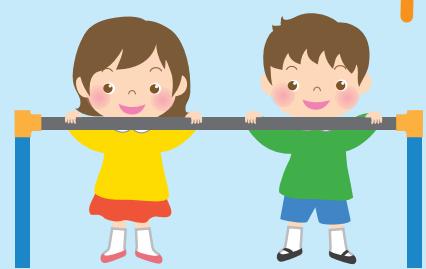


集団生活を楽しくする力づくり

運動

コントロールする力

- 45分間(授業時間)座れるようにするには背筋力が必要
- 背筋力を養うために、固定遊具でしっかり遊びましょう



あいさつルール

友達づくりの力

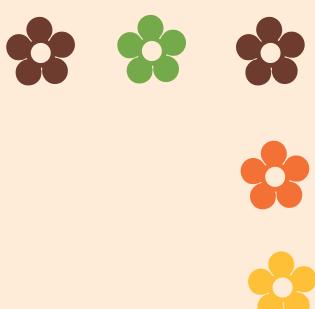
身近な大人がモデル！

- 集団生活へのよりよい適応条件は、上手なあいさつとルールを守れる力!
- 「できている!」「それでよい!」と認める言葉で自信を育てる



こんなことにも気をつけて

- 防犯ブザー・ゲーム機・カギなどのひもは、首に絡む危険性大
- ランドセルは、重くないですか?必要なものだけを準備して
- 親子で事前に通学路を点検して、危険な場所では十分な注意を
- 家庭での冷暖房は、学校での生活を考慮して
- こどもが使うスマートフォンや携帯電話には、フィルタリングを利用しましょう
- 利き手は無理に矯正しなくても大丈夫
- 虫歯の治療も忘れずに



子どもが小学校に行くことで世界が広がるように、おとうさん、おかあさんの世界もそれとともに広がります。

物事を知ったり、わかったりする楽しさは、まず親が率先してそういった姿を見せて、子どもに伝わります。実は、子どもの学習の一番の基本は、「まね」をすることなんです。

子どもにはことばで言うより、**手本を見せましょう！**
いっしょにすることから始めましょう！



親の背中から

子どもは「大人になったら、おとうさんのようにになりたい、おかあさんのようにになりたい」と思います。

親の役割 子どもの目標、モデル、家族が安心できるより所

- 親は、経済力ばかりでなく精神的にも安心を与えられる存在です。
- 親と先生との信頼関係を築くことが子どもの生活や学習に良い影響を与えます。



家族の“きずな”が子どもの発達・成長の土台となります！

- 親として、子どもの気持ちを受け入れることが、子どものやる気につながります！

親や先生に大切にされていると感じている子どもほど、勉強やいろいろなことへのやる気が育っていることがわかっています。

- もっとも効果的な学習方法は、親がお手本をしめすことです！

親のようすをじっと見ていて、親が使った言葉を、適切な場面で、見事に使う子どもをよく見かけます。一度も練習しなくとも、間違えることなく学んでいるのです！

- 子どもを大切にし、いいお手本になることが、子どもの学びを支えます！





わが家のルールをつくろう

大切にしたいのは、子どもの生活リズムです。子どもと話し合って家族でルールをつくりましょう。簡単なルールでもいいので、一緒に決めたことをしっかり守ることが大切です。

▶ 朝起きる時刻 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 </div> <p>朝ごはんは子どもの 目覚まし時計!</p>	▶ 寝る時刻 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 </div> <p>「寝る子は育つ」は 科学的にも本当!</p>	▶ 夕食の時刻 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 </div> <p>一家団らん、楽しい時間 夕食がむりなら他の手段で</p>
▶ お手伝い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 </div> <p>どんなお手伝いを しますか?</p>	▶ 本を読む時刻 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 から </div> <p>家族で読書 コミュニケーション!</p>	▶ わが家のルール <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: auto; position: relative; overflow: hidden;"> 時 分 </div> <p>わが家のルールを 書きましょう!</p>

家庭で本を読んでいますか？

子どもに本を読んで聞かせていますか？

- 本は、子どもに想像力や考える力を身につけさせ、豊かな感性や情操などを育みます。
- テレビの見過ぎやゲームのやり過ぎに注意し、毎日少しでも子どもと本を読んでみませんか。
- 子どもと図書館に行ってみませんか？本を与えるだけでなく、親が本を読む姿を子どもに見せることが子どもを本好きにすることがわかっています。

読み終わった本のことを、子どもと話しませう。

- 同じ本を親子で読む「読み比べ」や、絵本などの「読み聞かせ」は、親子のコミュニケーションを育てます。
- 親子のコミュニケーションは、子どもの不安感を和らげ、学校生活への適応を助けます
- 新しい生活が始まろうとしている今、ぜひ家族で本を読みましょう！



このパンフレットをつくった

公益社団法人 和歌山県青少年育成協会って？

次代を担う青少年の健全育成を図るため、様々な取り組みを行っています。
また、県内すべての市町村に、青少年の育成活動を推進するために設置されている
市町村民会議と連携しています。



こんなことをしています！



■少年メッセージ

中学生が日常生活の中での実体験などを通して得た自らの考え方や将来の夢を発表することにより、大人が今の中学生の考え方を深く理解する機会を持てるようにするとともに未来を担う若い世代の育成を図っています。

■リレー式次世代健全育成事業

青少年の家での様々な体験活動によって、明日の青少年リーダーを養成しています！
※詳しくは当協会のホームページで！

■子供・若者育成支援県民大会

和歌山の未来を担う子供・若者が活力に満ち、心身ともに健やかに成長することは、すべての県民の願いであり、地域全体で子供・若者を育成する仕組みづくりが必要です。

家庭・学校だけでなく、地域が一体となって子供・若者育成活動への参加を呼びかける機会として県民大会を開催しています。

■〈家庭の日〉運動の推進

毎月第3日曜日は〈家庭の日〉

家族みんなが温かく心ぶれあう機会を持ち、明るく楽しく家庭づくりを進めるきっかけにと、和歌山県では毎月第3日曜日を家庭の日と定め、家庭の日などに優待券で協賛店舗や施設などで各種サービスが受けることができる「家族ふれあい優待制度」を実施しています。※詳しくは当協会のホームページで！

●「家族そろって新入生」パンフレット作成

子どもと一緒に学んで育つ親になるためのパンフレットを作成し、県内の小学校入学前の年長年齢児童の保護者全員に配布しています。

〈パンフレットの声・感想〉が届いています。

- ◆チェックリストを子どもと一緒にを行うことにより、子どもの気持ちを理解する良い機会になりました。
- ◆子どもの気持ちや接し方について、改めて考えさせられました。
- ◆わが家のルール作り、生活を見直す良いきっかけになりました。
- ◆パンフレットを見ることで、改めて親子関係を見直せるよい機会になりました。

※子育てに関することで困ったことがあればお住いの市町村教育委員会へお問合せ下さい。

■編集委員・監修

米澤 好史 和歌山大学教育学部教授

■編集委員

小笠原 真弓 和歌山信愛女子短期大学
倉本 健吾 県教育委員会生涯学習課主査
岡山 愛 那賀振興局地域振興部主査
橋 美佐 和歌山市保育こども園課保育専門員

編集後記

- ◆このパンフレットは、親子で小学校の環境にスムーズに適応できるよう役立てていただきたいと平成19年から作成し、今回で第17版になりました。
- ◆子どもへの関わり方で、「聞けばごく当たり前のことでも、そのように接していないことに気づく」、「今の時期だからこそ、大切だということに気づく」、「保護者と子どもの考え方の違いに気づく」、それらのことに一つでも多く気づいてほしいという想いで作成しています。これからのお育てのお役に立てばうれしいです。



公益社団法人 和歌山県青少年育成協会

〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9階
TEL:073-435-5236 FAX:073-435-5238

HPアドレス <http://wpyda.org/> E-mail:wakatsu@cypress.ne.jp

発行 2023年1月 ※このパンフレットについて、ご意見・ご質問等があれば上記までご連絡ください。

和歌山県青少年育成協会

検索

